

基本構想

問 人口減少社会の中で10年後の町の人口を3万3000人と予測しているが、根拠は。

企画課長 多摩都市モノレール延伸と子育て施策の充実による相乗効果により、若者層の人口流入を見込んだ。

問 児童・生徒との意見交換や小・中学生議会などを行ってきたが、計画策定に向けて、子供たちの意見は反映されているか。

企画課長 各種計画に反映している。

問 町の魅力をどう捉え、どう際立たせていくのか。

企画課長 自然・工業力・道路網など他にもたくさんの魅力があり、それらの資源をつなぎ合わせるにより相乗効果が発揮され町の魅力が高まる。



基本計画 基本目標 4

つながりと活力にあふれるまち

問 「新たな産業、イノベーション（技術革新）の創出につとめる」と計画目標にあるが具体策は。

産業課長 都は「多摩のイノベーション創出拠点の形成に向けた取組方針」を2年2月に定めた。また、設立されている「多摩まちづくり推進連絡会議」に参加して、イノベーション創出のまちづくりに生かしていきたい。

問 企業誘致奨励制度による企業立地の目標設定を9社としているが。

産業課長 過去10年間で3件だったが、今後、多摩都市モノレール延伸、土地区画整理事業の進捗、都市計画道路の整備などで立地魅力が向上する。さらなるPRと情報収集で10年間で6社増やし、合計で9社にする計画である。

基本計画 基本目標 1

誰もが健康でこやかに暮らせるまち

問 「新たな機能を備えた体育館の新設検討」とあるが内容と実現の見通しは。

社会教育課長 民間による運営の可能性などを検討したい。最終的には財源の確保になるが、できるだけ早い時期にプロジェクトチームを立ち上げたい。

問 障がい者福祉の就労支援と社会参加の促進では「施設の円滑な運営」と記載されているが、施設の増設や定員増は記載されていない。

福祉課長 民間事業者と協力して定員増につなげたい。

基本計画 基本目標 5

環境にやさしい安全・安心なまち

問 防災施設・設備の充実で、「新たな情報ツールの整備・研究」とあるが、どのような10年後を考えているのか。

住民部参事 クラウドを利用した収集機能の整備、放送事業者などの協力を幅広く研究していく。そのほか、電話配信機能の追加や新たな通信技術に伴う機能追加などの情報提供ツールなどについて考えていきたい。

問 「公共施設での再生可能エネルギー利用の推進」「住民・事業者などと連携し、温室効果ガスの排出量を抑制」とあるがどのように取り組んでいく計画か。

環境課長 太陽光発電など公共施設においては財政も考慮しながら可能な限り設置していく。住民や民間事業者については省エネの電化製品を購入するとポイントが付く制度などを都が実施しており、このような制度を普及啓発していく。



庁舎西側に設置されている太陽光発電のルーバー

クラウドとは…インターネットなどのネットワークを通じて利用するサービスの総称。

基本計画 基本目標 2

子どもたちがのびのびと育つまち

問 主要な取り組みに、病児・病後児保育の充実が入っているが、具体的にはどのような取り組みを考えているのか。

子育て応援課長 病児・病後児保育の利用者補助金の施策を検討している。また、ベビーシッターの利用者補助金も検討している。

問 児童館の新設や、既存の建物を利用した児童館の設置などの検討を計画に明記すべきではないか。

子育て応援課長 計画では移動児童館の拡充を目指す。

企画部長 町内で必要とされる公共施設などを長期的視点で最適に配置するためのプロジェクトチームを立ち上げていく。

基本計画 基本目標 6

便利で快適に暮らせるまち

問 アンケートでは、できれば引っ越したいとの回答のうち89.6%の方が、町の交通の便が悪いという理由であった。10年間でどのように改善していくのか。

秘書広報課長 JRの増便については、JR東日本八王子支社へ引き続き要望活動を行っていく。コミュニティバスについては、誰からも愛されるバスを目指す。多摩都市モノレール延伸については、町全域で機運醸成活動を展開していく。

問 公園については地域バランスを考慮した計画になっているか。

都市計画課長 駅西、殿ヶ谷の2カ所の土地区画整理事業地内に各3カ所、計6カ所の公園を整備する計画となっている。



休日の松原中央公園

基本計画 基本目標 3

豊かなところを育むまち

問 10年後を見据えた時に、今以上に町内会・自治会の活性化は必要と考えるが、どのように取り組んでいくのか。

地域課長 先進地をよく調査し、連合会と情報共有しながら新しい展開ができるか検討していく。

問 審議会委員の女性比率を現状25.1%から10年後33%にする目標を掲げているが。

企画課特命担当主幹 最初の5年間で毎年10名ずつ増やし、残りの5年は5名ずつ増やすことで、目標を達成していきたい。

基本計画 基本目標 7

総合計画の実現に向けて

問 「住民が町に愛着が持てるよう、戦略的な宣伝活動を推進する」とあるが具体的な計画は。

企画課特命担当主幹 3年度から登場する町の公式キャラクターを、町のイベントやふるさと納税、みずほブランドの宣伝などに有効に活用していきたい。また、ふるさと学習みずほ学などを通じて、町への郷土愛を高めていきたい。



2年12月に行われた瑞穂町公式キャラクターワークショップの様子

問 今後10年間でどのように協働のまちづくりを浸透させていくのか。

企画課長 「すみたいまち」「あたらしいまち」を実現するためには職員の意識改革が必要と考えている。職員が町民の皆さまと直接対話する機会を増やしていくような形で協働のまちづくりを進めていきたい。